

自己評価票

- 自己評価は全部で100項目あります。
- これらの項目は事業所が地域密着型サービスとして目標とされる実践がなされているかを具体的に確認するものです。そして改善に向けた具体的な課題を事業所が見出し、改善への取り組みを行っていくための指針とします。
- 項目一つひとつを職員全員で点検していく過程が重要です。点検は、項目の最初から順番に行う必要はありません。点検しやすい項目(例えば、下記項目のⅡやⅢ等)から始めて下さい。
- 自己評価は、外部評価の資料となります。外部評価が事業所の実践を十分に反映したのものになるよう、自己評価は事実に基づいて具体的に記入しましょう。
- 自己評価結果は、外部評価結果とともに公開されます。家族や地域の人々に事業所の日頃の実践や改善への取り組みを示し、信頼を高める機会として活かしましょう。

地域密着型サービスの自己評価項目構成

	項目数
I. 理念に基づく運営	22
1. 理念の共有	3
2. 地域との支えあい	3
3. 理念を実践するための制度の理解と活用	5
4. 理念を実践するための体制	7
5. 人材の育成と支援	4
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	10
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	4
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	6
III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	17
1. 一人ひとりの把握	3
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	3
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	10
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	38
1. その人らしい暮らしの支援	30
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	8
V. サービスの成果に関する項目	13
合計	100

○記入方法

[取り組みの事実]

ケアサービスの提供状況や事業所の取り組み状況を具体的かつ客観的に記入します。(実施できているか、実施できていないかに関わらず事実を記入)

[取り組んでいきたい項目]

今後、改善したり、さらに工夫を重ねたいと考えた項目に○をつけます。

[取り組んでいきたい内容]

「取り組んでいきたい項目」で○をつけた項目について、改善目標や取り組み内容を記入します。また、既に改善に取り組んでいる内容・事実があれば、それを含めて記入します。

[特に力を入れている点・アピールしたい点](アウトカム項目の後にある欄です)

日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入します。

○用語の説明

家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。

家族 = 家族に限定しています。

運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。

職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みます。

チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

○評価シートの説明

評価調査票は、プロセス評価の項目(No.1からNo.87)とサービスの成果(アウトカム)の項目(No.88からNo.100)の2種類のシートに分かれています。記入する際は、2種類とも必ず記入するようご注意ください。

事業所名	グループホーム六尾の郷
(ユニット名)	ユニット1及びユニット2
所在地 (県・市町村名)	大阪府泉南市信達金熊寺118番地
記入者名 (管理者)	本田 梓
記入日	平成19年12月15日

地域密着型サービス評価の自己評価票

(部分は外部評価との共通評価項目です)

↑ 取り組んでいきたい項目

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営				
1. 理念と共有				
1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	法人理念である、『その人がその人らしく～』を念頭に、また地域密着型サービス事業所であることの意識を持ちながら、泉南市役所等との連携を図り、地域に開かれたサービスの提供内容を周知して頂く段階である。		
2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	理念の共有と共に、管理者・職員は日々の取り組みの中で、各人で意識しながら入居者等と接することで当グループホームらしさを作り上げる。		
3	○家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる	今までも自分達の取り組みが入居者・家族等にその人らしさが持続できた生活に近づけるよう、また共に考えることができるよう努めてきたが、地域の方にも幅広く理解が得られるよう更なる働きかけをしていきたい。	○	法人行事、グループホーム独自のお誘いを通して、まずは顔見知りの関係を形成中。その反応の中で、法人の機関紙をみているとコメントがあり、より深く知りたいと尋ねてもらえる場面がある。興味から身近な存在になるよう今後も働きかけていく。
2. 地域との支えあい				
4	○隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている	グループホームを一軒の家と捉え、身近な付き合いとしてケアハウス・特養入居者との交流を持っている。例えば、グループホームから特養へ入所した方の面会の場を互いに暮らしの中で持つこと。	○	法人外としては、六尾地区の方とは行事を通しての付き合いとなってる。しかし半年前よりは積極的なかわりが増え、六尾の入居者、職員との意識が芽生えつつある。また散歩中に親しく声を掛け合うこともある。
5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	毎年、地元小学校の運動会や秋祭(やぐら鑑賞)等へ参加しているが、日常的に地域の催しへは現在のところ参加していない。グループホームからの発信としては、ハガキ教室への参加を月1回呼びかけている。	○	法人職員は老人会等に参加し、接点作りをしている。その関係を通してグループホーム職員も数回集まりにでかける。またハガキ教室で地域及びグループホームが顔見知りになりつつあるため、今後積極的に取り組む。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	<p>○事業所の力を活かした地域貢献</p> <p>利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる</p>	<p>入居者、地域の交流としてグループホーム内でのハガキ教室ある。運営推進会議でも、高齢者になるとなかなか外へ出る機会がないという地域代表者の声もあり、微力ながらコミュニケーションの場として月1回ではあるが活用している。</p>	○	<p>法人の地域貢献事業でもある地域住民と法人職員による交流の場が年に数回ある。その場へもグループホームとして参加しているが、まずは交流(多くの方と顔なじみの関係)を第一として役立つ支援を他事業所とも検討していきたい。</p>
3. 理念を実践するための制度の理解と活用				
7	<p>○評価の意義の理解と活用</p> <p>運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる</p>	<p>自己評価及び外部評価の各プロセス及びその結果を十分に活かし、よりよりサービス及び職員育成につなげていく。外部評価は主観ではなく、客観的な評価となるため素直に受け止めていく。</p>		
8	<p>○運営推進会議を活かした取り組み</p> <p>運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている</p>	<p>昨年の1月より会議を実施。グループホームの取り組みの発表から地域交流について検討。家族の希望でもあった子供たちの交流についてや、より会議への参加を促しやすくなるよう、昨年の11月に勉強会としてグループホーム恒例の家族会、交流会の催し内容へ取り組むことを大きな一つの企画として実現した。</p>	○	<p>取り組みとしてあった子供等との交流については、大きな企画としてだけでなく、入居者の生活中に負担ない形で普段からある形としてもっていきたい。</p>
9	<p>○市町村との連携</p> <p>事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる</p>	<p>会議を通して以前よりも、身近な存在として相談しやすい関係にある。また上記の催しにも参加を呼びかけ、入居者、家族、地域との連携の第一歩となった。泉南市市役所職員が市内各グループホームへ体験として1日一緒に過ごす機会もあった。</p>		
10	<p>○権利擁護に関する制度の理解と活用</p> <p>管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している</p>	<p>当法人は泉南市より地域包括支援センター事業を受託しており、常日ごろ活用できている。また地域福祉団体等とも良好な関係を構築できており、タイムリーな対処を可能としている。</p>		
11	<p>○虐待の防止の徹底</p> <p>管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている</p>	<p>法人の所内研修への出席、グループホーム内では新聞等のニュースから職員間での話し合いの場を持つ。また職員と日ごろから話す機会を多く持つことで抱えている悩みを皆で解決するように心がけている。介護士の悩みはサービス内容の確認と他者の援助を知り、自分の形を見つけ入居者、家族へとつなげていくことを意識している。</p>		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制			
12	○契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約だけに限らず、見学や面接等から得た入居者、家族等の気持ちをその場面に活用できるよう意識を持つ。また後日でてくるであろう質問等にも応じることができるという姿勢を持ち伝えている。	
13	○運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	共に生活を営んでいる者として職員が意識しており、入居者の想いについて、家族等を交え考える機会を多く持つ。また意識等を表面化することが難しい入居者に対しても小さな変化に気づき、上記のようにつなげていく。	
14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	面会時には勿論のこと、遠方の家族へは電話、手紙を通して特変時に限らず報告している。また職員だけでなく、入居者から電話して頂く等して、その時の状況をより実感してもらいたいと考えている。面会と面会の間は、いかに入居者と家族のつながりを作るかを意識している。	
15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	グループホームへの意見は、苦情として捉えるのではなくサービスの向上として考えていると家族へ伝達。普段の日常会話からも見直しのポイントを挙げ、つなげていくことを大切にし、取り組む。同時に第三者機関を設置してあることも説明している。	
16	○運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	管理者の立場と一グループホーム職員としての両面から入居者、家族等は勿論のこと、職員の喜びも実感できるような環境作りを考慮している。声の届く管理者として存在していきたいと努める。	
17	○柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている	チームワークについては、どの職員も『良い』と返答できる関係の形成ができています。	
18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	職員の離職に関しては、『自分は役に立っているのか、不向きではないのか』と自分に自身を無くしてしまうことが原因の一つにあるのではないかと考える。その職員にしか出せないカラーがあり、周囲が不足部分を補い、皆で成長していける場として前向きに捉えていく。異動してきた者もいるが、元々いる職員が入居者と異動者の橋渡しとなっている。ここ1、2年はメンバーの固定ができています。	

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援			
19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	管理者及び職員の育成に関しては、その都度法人内・法人外の研修を受講させている。また月1回の調整会議(管理者・主任会議)内でも育成に関しては注力している。	
20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	泉南市内における他グループホーム職員の意見交換等を実施している。	
21	○職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる	環境づくりについては、悩み・ストレス等を感じているときには1対1で話しを聞き、解決策等を考えている。また人員配置等も常勤職員を多めに配置しており、職場の環境作りをしている。	
22	○向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	年2回のフィードバック面接(評価面接)をはじめ、平日頃についても適宜話し合いの場を持ち、バーンアウト現象にならないよう努力している。	
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援			
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応			
23	○初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	この項目に関しては、家族等からの相談ケースが多いため一方的な情報提供にならないよう、両者と時間を設け、接点作りをしている。互いの情報については、両者にとって共有部分を想いとして聞き、職員間の心に止める部分とを考慮して対応に努める。	
24	○初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	同上	

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
25	○初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	家族等が直接相談に来られた際には、その想いを受け入れると共に、冷静に選択できるような話し合いの場作りを考慮し、情報提供に努めている。		
26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐徐に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	法人の他事業所を利用して頂いている方には、利用時にその場へ出向き、少しでも顔なじみになっておくことや、初めての施設利用の場合は、見学や面接時に職員としてマンツーマンにてフロアの雰囲気を徐々に肌で感じられるようにしている。『お待ちしております、また遊びに来てください』と受容の声掛け等で安心していただけたらと考える。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援				
27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	入居者が同じ空間にいて、どうすれば自然な形として職員を捉えてくれるだろうかと振り返ることを忘れずに、職員がその人にとって何役(娘、妹)にでもなるように入居者に何役にでもなってもらえる場が多くある。また同じことを共にする、後に振り返り感想を口にするなど、生活の中で『家族だな』と思える瞬間がある。		
28	○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	入居者とのエピソード話があると、家族、職員とで情報交換に華が咲く。また互いに『この時はどうすれば、』と相談し支援につなげていけることもある。	○	家族会(年1回)の小さなことを月1回でも開催し、普段の面会では話すことが少ない質問等に返答し、よりグループホームを知ってもらい、声を出しやすい関係になれば更に良いと考える。
29	○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	入居前の関係の良し悪しに関わらず、時間はかかっても両者の関係が良い方向になるようフォローに入ることに努める。		
30	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	馴染みの人、場に触れ合うことでの関係継続に加え、職員も入居者や場所を理解し同じ目線で話ができるように努め、出来事の印象付けをしている。		
31	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	入居者からの接点作りや職員が雰囲気作りをしてからと、様々な関わりの形があるが、できるだけ入居者の素の部分でお付き合いできるように配慮している。またグループホーム1階、2階とでも小さな地域社会(出会いの場)となっていることを実感している。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
32	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	項目4にも挙げているように、グループホームサービス利用者が終了しても、利用者、家族へのつきあいは大切にしている。また法人内サービスを利用して頂く場合は、他事業所職員との情報交換、共有に努め継続したケアを行う。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
1. 一人ひとりの把握				
33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	共同生活においても、一人ひとりの持っておられる思い、意向にはできる限り実現したものになるように把握をしている。		
34	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居者や家族等に、サービス利用前だけに限らず、グループホームにおいても、引き続き同じリズムがとれるようにその都度に話をする。出来事の前後を読み取り、提供できるようにしている。		
35	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	ベースにはいつもの入居者を念頭におき、心身状態だけでなく、住環境からも小さな気づきを大切に、職員で把握に努め、より具体的に現状を知ることを行っている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	介護計画の作成にあたり、特定の職員だけでなく、課題、ケアを短時間の勤務職員であっても、身近なものとして捉えられるよう検討の場がある。また普段から状況については話し合っている。		
37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	変化に対しては日常的に行っている情報交換や、ケース会議にて見直しをしている。またその場に不参加である者に対しても書面に加え、口頭でよりスムーズに理解できるようにしている。家族等には面会時以外にも事前、事後報告を電話や日程を決め検討する場を設けている。	○	家族の都合もあるが、定期的に本人様の状態を知り、共に考える場の提供は面会時以外にも働きかけていきたいと思う。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
38	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々のケース記録には、1日の状況が人目で分かりやすいように作成している。また生活面、ケア面と区別して記入することで以前のケース記録よりも介護計画の見直しや実践が具体的で取り上げやすい。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援				
39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	365日、24時間体制にて入居者の健康管理に努めている。協力医療機関とのパイプ(入院時だけでなく、普段の診察を含め)があるため安定した環境下の中で支援できている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働				
40	○地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	今まで、このような事例はないが、泉南市役所、各福祉協力団体、民生委員、法人地域包括支援センターを含め、強固な支援体制を敷いている。		
41	○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	法人内ではあるが、必要に応じて事前に他サービス等について情報提供や話し合いの場である。		
42	○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	地域運営推進会議をきっかけとし、地域包括支援センター六尾の郷とのつながりが増えた。また家族に関してもグループホーム以外との交流があり、直接的な接点の場もできることに期待している。		
43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	協力医療機関と事業所の関係作りは、六尾診療所(法人)を通して、医師、看護師、グループホーム職員がそれぞれの立場にて連携をとりながら支援できる体制がある。入居者または家族が希望される病院受診にも、入居者、家族、主治医、看護師、グループホーム職員との情報共有にて支援をしている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
44	<p>○認知症の専門医等の受診支援</p> <p>専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している</p>		
45	<p>○看護職との協働</p> <p>利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている</p>		
46	<p>○早期退院に向けた医療機関との協働</p> <p>利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している</p>		
47	<p>○重度化や終末期に向けた方針の共有</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している</p>	○	<p>検討会議のように、事前事後の報告する場の必要性を実感。現在面会時間中にも深く意見交換することを実践中。</p>
48	<p>○重度化や終末期に向けたチームでの支援</p> <p>重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている</p>		
49	<p>○住み替え時の協働によるダメージの防止</p> <p>本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている</p>		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援			
1. その人らしい暮らしの支援			
(1)一人ひとりの尊重			
50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	所内研修にてプライバシーの確保についても学び、グループホーム内に持ち帰り職員一人ひとりに対してもその重要性、守秘義務についても徹底している。	
51	○利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている	日々の暮らしの中で、入居者自身での選択・決定については、その事項がしやすい環境や状況作りに重点を置き、接点を持っている。	
52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	自己にて生活リズムを作り出すことが難しい方にも、言動、表情に心をとめて、その人らしきのある場面が多くあるように心がけを支援している。	
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援			
53	○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている	グループホーム生活以前からある入居者の生活習慣(整容)についても意識し、認知症状の進行により難しい状態にあっても、取り入れていき、自身の気づきとして意識して頂きたいとしている。	
54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	その時々が入居者がしたい、できることに手を出して頂くことで食への意識を高め、摂取量の増加にもつなげている。職員も共に食事を取り、一人ひとりの食事にたいしての想いを身近なものとして、より楽しい食事の時間となっている。	
55	○本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのもを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	献立作成にあたっては、ベースにケアハウス栄養士作成分があるが、見直しの際には生活の中から考えられる嗜好品を取り入れている。	

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
56	○気持よい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	排泄パターンはケース記録に記入しており、自然な形でトイレへ向かうことができるようにしている。		
57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	9人の入居者で4人、5人と隔日の入浴リズムがあるが、時間帯に関してはできるだけ希望に添えるようにしている。入浴の意識につながりにくい入居者に関しては、無理強いせず支援方法を変える等して、本人からの入浴に努め、一人ひとりの入浴スタイルを職員で情報共有している。		
58	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	日中皆と過ごされる方が安心する方が多い。一体感があるため、気を抜くことをされず後の生活中に影響がでる。その過ごされている中での気持ちの表れを読み取り、そっと退席しやすい声掛け等をしている。夜間に関しては、眠りやすい状況を作る上で、自身で休みやすい体勢等があると思われるので、その状況を本人と作ることを大切にしている。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	入居者の生活歴と現在の生活について、今と昔を同じ気持ちで生活している方が多く、現実とのギャップを最小限にしその気持ち、行動がつけられるよう、また入居者のものになるよう、その都度で接点をもっている。		
60	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	後々のトラブルを防止するため、基本的に金銭の所持に関しては遠慮して頂いている。その中で希望者に関しては入居者管理(但し小額)にて所持。但し外出時については、入居者に財布を持ってもらい、直接レジにて支払い等してもらっている。		
61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	入居者の会話の中から読み取ることができる外出希望に向けて、その日又はできるだけ近日中に外出できるように支援している。		
62	○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	家族より旅行の相談があり、職員が同行したり、入居者が墓参りをキーワードにした日常会話があれば家族と相談し、実現へとつなげられるよう取り組んでいる。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
63	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	月一回のハガキ教室での作品を家族へ送付したり、今の想いを伝えたい(伝えてもらいたい)時には電話にてやりとりしている。また手紙はその人だから言える想いが沢山詰まっており、大切にしたいことである。		
64	○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	グループホームでは家族等にとっても、母親の自宅等として居心地の良い空間になるよう努めている。幸いなことに、一個人の家族としてだけでなく、グループホーム全体を家族として捉えて接していることが多い。		
(4)安心と安全を支える支援				
65	○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束に関しては、所内研修にて実施済み。欠席者については、後日管理者より説明がなされている。		
66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	玄関(自動ドア)を空けることでいつでも行き来できるという心の開放感があると実感。このことに関しては、他事業所にもこの取り組みを伝達し協力を得ている。1階は外気が直接フロアに入り込み、冬場は入居者より寒いとの声があり閉めているが、気持ちに添って開けることをしている。2階に関しては、一つの部屋として自動ドアを毎日開放しており、エレベーターホールを利用し寛ぎ空間としてテーブル、椅子を配置している。(今夏からの取り組みである。)		
67	○利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	共同生活の中で一息つきたいと思われることを理解し、観察ではなくちょっと通りかかってみたという感じでの自然な配慮を心がけている。その状況は同フロア職員へも伝達し共有の中で確認している。		
68	○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	危険だからすぐ取り除くのではなく、必要時には職員が守ることをする等で、当たり前にある物はある環境にしたいと思っている。		
69	○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	所内研修や、医師、看護師から学んでいる。今ある環境、状況において考えられることについて日々話し合っている。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
70	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	備えとして書面をファイルしており、日々の状態把握につとめ(情報交換、実際に確認)、今後どのような状況になりえるかを考え対策をしている。またことが発生してから次へつながる取り組みを考え周知している。		
71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	定期的に訓練しており、入居者自身への理解を得るなか、職員の取るべき行動について身につけている。また災害時の地域への呼びかけや水・食料品等の確保について、法人として取り組んでいる。		
72	○リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にされた対応策を話し合っている	事前事後報告をしており、今ある状態の共有を家族、職員でしている。その取り組みが入居者らしい暮らしが持続したものにつながると感じる。		
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
73	○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	勤務階に限らず、職員一人ひとりがいつでも対応できるようにと、連絡を取り合う環境にしている。また普段から医師、看護師らと情報交換することで気づき、対応が速やかに行われることを日々考えながら勤務している。		
74	○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	常備、臨時薬に関わらず目的等を知り、入居者の状態がどうあるのかということに意識を持ち、服薬支援に努めている。		
75	○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	原因、影響について理解することは勿論であるが、本人の排便スタイルを観察し、入居者自身が集中できる状況に支援していくことも重要であると認識している。		
76	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	毎食後の口腔ケアに加え、歯科受診時に専門家によるブラッシング方法を伝授してもらうことで、日常的にも高い意識の中でケアできればと実施。また入居者にも生活習慣として捉えられるよう、促し方を考察している。週一回義歯装着の方には洗浄剤を用いて清潔保持に努める。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	毎食後一日トータルにてその方に応じた食事、水分量を提供したいと考える。また摂取が難しい場合には時間帯、嗜好品を考慮したり、医療、栄養分野の視点からアドバイスを受け支援している。		
78	○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	感染予防に関しては、法人全体での所内研修を踏まえ、グループホームとしてではなく、法人全体で予防に取り組んでいる。		
79	○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	グループホームにて入居者、職員にて調理しているため、手洗い消毒の徹底は確実にしている。調理器具についても熱湯消毒や除菌効果のある洗剤にて衛生に努めている。また法人内の栄養士からも指導・研修もある。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり				
(1)居心地のよい環境づくり				
80	○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	項目66と重複するが、明るく開放感のある玄関になるように工夫している。		
81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共有空間においては入居者自身が手を伸ばしやすい環境であり、本人達が主体となれるものになるように努めている。またハガキ教室や手芸教室での作品を展示している。		
82	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	フロアには大きな家具が多く、こじんまりとしている空間には不向きかもしれないが、配置を状況により変えることで視点の違い心の切りかえをされることもある。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居者が共同スペースから戻る際にポイントとしていることは、表札であったり覚えていることであったり様々であるが、やはり見慣れた品々を見て自室(自宅)に戻ってきた、、、一息つこうかな、、、につながると思う。自宅での愛用品の持ち込みだけでなく、家族もくつろげる過ごしやすい居室作りに勤めている。		
84	○換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のおよみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	人肌での感覚だけでなく、湿度計を利用し調整している。		
(2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				
85	○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	1階、2階の行き来はスタッフ動向だけでなく、『行って来るね』という想いを大切にし、内線で事前連絡し自主的な行動として実現できるようにしている。居室内の持ち込み家具等に関しても、本人の動線を配慮したものとしている。		
86	○わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	この項目だけではないが、入居者自身の生活が本人主体となるように、私達職員は共に表になったり裏方になったりと自然体でいられることを大切にしたいと思います。またチームワークにて支援することが入居者さんの力の発揮を大いに引き出せると思う。		
87	○建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	ベランダで花木を育てる、芝生スペースにて食事や日光浴など外回り空間での気分転換や活動を図っている。		

V. サービスの成果に関する項目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
項 目			
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	○	①ほぼ全ての利用者の
			②利用者の2/3くらいの
			③利用者の1/3くらいの
			④ほとんど掴んでいない
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○	①毎日ある
			②数日に1回程度ある
			③たまにある
			④ほとんどない
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
94	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	○	①ほぼ全ての家族と
			②家族の2/3くらいと
			③家族の1/3くらいと
			④ほとんどできていない

項 目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている		①ほぼ毎日のように
			②数日に1回程度
		○	③たまに
			④ほとんどない
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている		①大いに増えている
		○	②少しずつ増えている
			③あまり増えていない
			④全くいない
98	職員は、生き生きと働いている	○	①ほぼ全ての職員が
			②職員の2/3くらいが
			③職員の1/3くらいが
			④ほとんどいない
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての家族等が
			②家族等の2/3くらいが
			③家族等の1/3くらいが
			④ほとんどできていない

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

1階の入居者は、想いがあって言葉に上手くさせなくもどかしさを感じられている人が多いと思います。しかし人の動きや想いを真っ直ぐに受け取られ、その時々表現方法にて私達職員に投げかけて下さいます。その投げかけに対して職員が他職員へも投げかけ情報を共有しており全て理解することは難しくても分かりあいたいという想いはあります。自己評価を記入してアピールポイントを考えましたが、グループホーム六尾の郷にはお家で飛び交うような何気ない会話ややりとりが沢山あると改めて実感できました。